

IPM実践指標(キャベツ)

分類	管理項目	管理ポイント	チェック欄			
			昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況	
予防	ほ場の準備	連作は避け、田畑輪換を行い、土壌消毒を実施する。				
		完熟堆肥の施用や緑肥作物のすきこみ等の土作りを行う。				
		暗渠・明渠排水を設置するなど、ほ場の排水対策を行う。				
		土壌診断を行い、pHを適正に保つ。				
	根こぶ対策	資材の投入	ケイ鉄を施用し、pHを適正に保ち、発病しにくい状況にする。			
		管理機の洗浄	使用したトラクタ等の管理機は洗浄し、付着した土壌を洗い流す。			
	ほ場内、周辺の除草	病害虫の発生源となるので、雑草を除去する。				
	抵抗性品種の利用	萎黄病対策のため抵抗性のある品種を利用する。				
	健全苗の定植	定植苗は、病害虫の発生・加害のない健全苗を使用する。				
	栽培管理	栽培基準に従って適切な密度で定植・管理して、軟弱徒長させない。				
	肥培管理	施肥基準に準じた、適正な肥培管理を行う。				
	病害の発生した株の処理	ほ場外に持ち出し、適切に処分する。				
	資材の消毒	使用した資材や支柱は残さを取り除き消毒する				
判断	防除要否・タイミングの判断	病害虫発生予察情報等の活用	病害虫防除所が発表する発生予察情報や普及指導センター等が出す病害虫に関する情報を入手し、発生状況を確認する			
	気象情報の活用	気象の状況を把握し、適期防除に心がける。				
	トラップの設置	粘着トラップ、フェロモントラップ等で害虫の発生状況の把握する。				
	病害虫の発生状況の把握	定期的に園内を見回り、病害虫の発生状況を観察及び確認する。				

IPM実践指標(キャベツ)

分類	管理項目		管理ポイント	チェック欄			
				昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況	
防除	生物的防除	チョウ目害虫類	生物農薬の使用	BT剤を使用する。			
		軟腐病	生物農薬の使用	非病原性エルビニア製剤を使用する。			
	物理的防除	交信攪乱剤の利用		チョウ目害虫類の被害を防ぐため、交信攪乱剤を利用する。			
		黄色蛍光灯の設置		ヤガ類の加害を防ぐため、黄色蛍光灯を利用する。			
	化学的防除	農薬の使用全般		十分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。			
		剤の選択	薬剤感受性の低下を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。				
			土着天敵に影響の少ない薬剤を選択する。				
			化学農薬に対する感受性の低下を抑制するため、物理的防除効果のある剤を組み入れる。				
		農薬飛散防止対策		農薬散布は、無風～弱風時に飛散が少ない散布器具を使用するなど、他の作物などに飛散しないように、適切な飛散防止策を講じる。			
	散布後の処理		散布器具、タンク等の洗浄を十分行い、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等に流入しないようにする。				
その他	作業日誌の記帳		各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の名称、使用時期、使用量、散布方法等栽培管理状況を記録する。				
	研修会等への参加		県や農業協同組合が開催するIPM研修会等に参加し、情報収集に努める。				